

## 横浜商科大学紀要の刊行に際して

昭和四十三年四月開学してから茲に十年余、まさに苦難の一時期であったかも知れません。

言うまでもなく、大学は、学術の中心として、学生に対し広く知識を授けると共に、深く専門の学芸を研究教授する即ち真理の探究と人間形成の場でなければならぬことは当然のことでありましよう。

そうした意味で、本学は、国際港都横浜に位置し規模は極めて小さな大学ですが、巨大な大学では実現しがたい特色を發揮したいものと、一途に、模索して参りました。

一つには先生方に研究の場を提供し併せて学生の個人指導に供するため教師の個室研究室を主体とした研究棟の建設、或は図書館の整備、つづいては学生の外国語や実技習得の場としてのLL教室、電算室、そして又学生の教科外活動の場も整え、教師と学生との接触を通じて普遍的にして而も個性豊かなそして又国際的教養豊かな人材育成を目途として歩みつづけたつもりであります。事、必ずしも意の如くならず、本学の教育行政の一担当者として汗顔の至りに存じております。この度、教師諸君の発意で既刊の「横浜商大論集」（横浜商科大学学術研究会編）とは別にお互いの研究成果を集録し、教師相互の横の連絡を密にすると共に学術振興の一助にもと「横浜商科大学紀要」の創刊を見る

に至りました。

このことについて御尽力をいただいた各位に心から感謝申し上げると共に、この「紀要」が末長く巻を重ねられますよう期待してやみません。

昭和五十二年九月

松 本 武 雄